

## 「楽しい学習の場」を目ざして

館長 高田 哲夫

近年、生涯学習の場として、また地域文化の継承発展の拠点として、各地に博物館の建設がすすみ、いわば静かな博物館建設ブームを生んでいる。しかし、博物館活動をいっそう活発化し、地域社会の要望に応え、その課せられた使命を全うするためには、施設・設備の整備とともに、資料の収集・充実へのたゆまぬ努力や職員の熱心な研さんが必要であろう。また、せっかくの優れた施設や資料も、多くの方々に御利用いただくためには、企画に工夫をこらすとともに、広報活動を活発化することが大切だと思う。

このような考えから、本館では、本年度の運営方針として、次のようなことを心がけてきた。

1. 本館設立の趣旨を体し、その使命を全うするため、絶えず施設・設備の整備、資料の充実、職員の資質の向上に努める。
2. 地域社会の多様化した要望に応えようよう企画に工夫をこらすとともに、広報活動を充実・強化して、広く県民の利用の促進を図る。
3. 学校及び関係機関・団体との連携を密にして、効果的な学習の場として活用されるように、特に教育面への利用の拡大・普及に努める。

各種の試みにもかかわらず、残念ながら入館者数が思うほど伸びなかったことについては、今後十分な検討・対策が必要だと思う。その際、本年度、本館に団体入館した各種の学校から寄せられた児童・生徒の感想文なども大いに参考にさせていただこうと思うが、ここでは彼等——主として小学生たち——が、どんなものに興味を示しているかを中心に若干考察してみることにする。

まず、彼等の多くが共通に関心を示したものに備前焼の大がめ、備前瀬戸の海底から出たナウマン象の骨格化石、そして復元した高瀬舟などがある。

備前焼の大がめは、鎌倉時代から江戸時代初期にかけて、主として貯水がめとして作られたものが展示されている。中国の北宋時代の政治家・学者であった司馬温公が、幼いころ、中に落ちた友だちを救うために割ったという水がめも、かくや……と思われるような巨大さが彼等の目をひくようである。ナウマン象の骨格化石なども、やはりその巨

大さ、物珍しさが関心の中心になっているように思われる。それに対して、高瀬舟は、交通機関としての親しみや物珍しさのほかに、直接に手でさわることが許されている館内唯一の資料である点に人気をよんでいる秘密があるようだ。

その他、本年度のテーマ展「吉備のはにわ」の見学者の中には、実際のはにわが予想以上に大きいので驚いたというような感想もあった。これは、おそらく観光地の土産物店などの店先のミニチュアをもとに、はにわの大きさを想像していたからではないかと思われる。特別展「古地図」で、国絵図のりっぱさや伊能図の精密さに驚嘆していた学生もいた。

一体、情報化社会といわれるほど、マスメディアの発達した現代では、知識や情報の量は増加していても、案外、対象に直接接して得たものは次第に少なくなっているのではないかと思われる。それだけに、「実物」を見せたり、「本物」にさわらせたりして、感じさせ、考えさせる教育をもっと積極的に学習活動に取り入れる必要があるのではなかろうか。私どもも、博物館が楽しい学習の場、楽しい実物教育の場となるよう努力していきたいものである。

ともあれ、かなりの生徒たちが、「両親ともう一度訪れてみたい」とか、「機会があれば、いろんな博物館に行ってみてみたい」など、博物館を身近なものとして親しみを持ってくれたことは、うれしいことであった。



備前大がめ

テーマ展

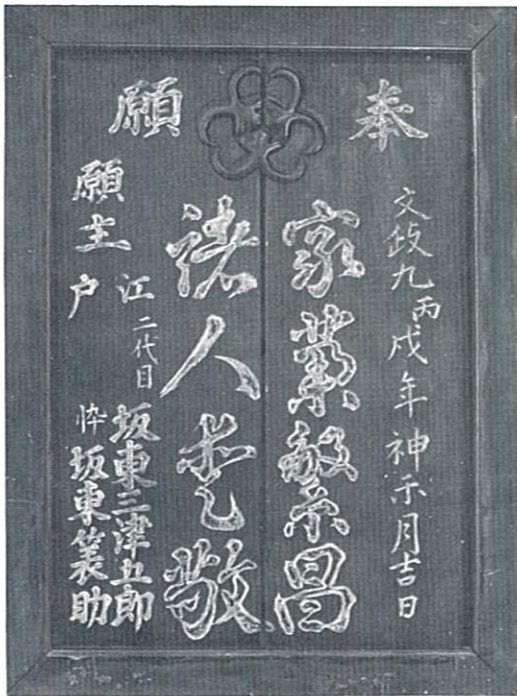
吉備津神社

5.25~7.4

吉備国の総氏神とされる備中一宮吉備津神社は、主神を大吉備津彦命とし、吉備の中山の西麓に鎮座する。その巨大な本殿の建築様式は比翼入母屋造と称せられるが、特異さ故に時に吉備津造の異名で呼ばれる。また、吉備津彦命の鬼神退治伝説に由来する鳴釜神事が今なお行われており、当社は古の吉備の面影を色濃く伝えているといえよう。

平安の頃、吉備津神社は神階としては最高の一品の位を与えられて神威を誇り、「梁塵秘抄」にも著名な軍神として登場している。だが、この山陽道きっての大社にも、神仏混淆の波は訪れ、社域には神宮寺や社僧寺、三重塔などが建立され、神宮と共に僧侶が神社に奉仕する状態が江戸時代まで続くに至った。とはいえ、吉備一円の貴庶の信仰は絶えることなく、殊に江戸期には幕府から朱印地を与えられて祈願所となっている。そして境内では歌舞伎や富くじが催されて人々が参集し、門前の宮内村も吉備津宮の繁栄に伴って遊里としての賑いをみせていた。

今回のテーマ展では、神社に伝来した資料を中心に展示構成を行った。



字額 坂東三津五郎奉納

出品目録

吉備津宮境内絵図	江戸時代末期	吉備津神社蔵
備中吉備津宮勸化状	天正 11 (1583)年	金山寺蔵
鳴釜	江戸時代後期	吉備津神社蔵
御釜殿棟札	慶長 17 (1612)年	〃
一宮社法	康永 元 (1342)年	吉備津彦神社蔵
坪付注文	大永 6 (1526)年	吉備津神社蔵
神主賀陽某氏譲状	鎌倉時代	〃
吉備津宮政所年貢送状	元弘 2 (1332)年	〃
○吉備津宮法楽一万句連歌発句	応永 8 (1401)年	〃
加藤正次・大久保長安・彦坂元成連署奉書	慶長 6 (1601)年	〃
徳川家光朱印状	慶安 元 (1648)年	〃
吉備津宮境内図	元禄 4 (1691)年	〃
○狛犬	南北朝時代	〃
○高麗版一切経	高麗時代	〃
吉備津宮境内図	江戸時代初期	金山寺蔵
○菩薩面	鎌倉時代	吉備津神社蔵
鬼面	室町時代	〃
□梵鐘	永正 17 (1520)年	〃
大太刀 銘法光	文安 4 (1447)年	〃
○大太刀 銘秀幸	長禄 3 (1457)年	〃
藤井高尚像		個人蔵
松屋ノ図	江戸時代後期	吉備津神社蔵
藤井高尚歌幅	〃	個人蔵
藤井高尚著述類	〃	吉備津神社蔵
枕冊子新釈・伊勢物語新釈		
松屋文集・松屋文後集		
備前焼欄間獅子	寛文 12 (1672)年	〃
燈籠	江戸時代初期	〃
風月燈籠	江戸時代	〃
絵馬		〃
黒馬図	室町時代	
算額 小野以正奉納	安政 5 (1858)年	
算額 藤田秀斎奉納	明治 2 (1869)年	
娘道成寺図 中村のしほ奉納	文化 5 (1808)年	
字額 坂東三津五郎奉納	文政 9 (1826)年	
乗馬貴人図 小野雲鵬筆	江戸時代後期	
扁額		〃
本宮	江戸時代初期	
○女神像	平安時代中期	個人蔵

(○) 印 県指定重要文化財  
(□) 印 重要美術品



テーマ展

吉備のはにわ

7.20~10.3

古代吉備の国は畿内・北九州と並び、古くから繁栄し、「吉備文化」と呼ばれる特色ある文化圏を形成した。

今度の「吉備のはにわ」展は4世紀から7世紀にかけて構築された古墳の墳丘や竪穴石室のまわりに立て並べられた各種の埴輪に焦点をあて、これらの埴輪を通して古代吉備文化を紹介しようとしたものである。

埴輪は円筒形埴輪と形象埴輪に大別され、量的には円筒形埴輪が大半を占める。円筒形埴輪は器台から特殊器台・特殊円筒形埴輪を経て円筒形埴輪への譜系を知ることができる資料を揃えて展示し、形象埴輪については岡山県の南部・中部・北部において学術調査がなされている金蔵山古墳・月ノ輪古墳・四つ塚古墳出土のものを核とし、県内の主要な埴輪や一部の人にしか知られていなかった埴輪を総集展観した。今回の展示は器財（甲冑・楯等）・家形・動物・人物等の形象埴輪に重点をおいて構成し、また、初めて県内の埴輪出土遺跡の分布図を作成し展示した。これらを通して、埴輪の種類・編年・製作技術や古代吉備地方の文化・習俗等の一端を理解していただけたと思う。

出品目録

特殊器台	宮山墳墓群	本館蔵
特殊壺		〃
特殊壺	便木山遺跡	中国古代資料館蔵
朝顔形はにわ	山陽町正崎	〃
特殊円筒形はにわ	都月1号墳	岡山大学蔵
朝顔形はにわ	岡山市浦尾	個人蔵
円筒形はにわ	〃	〃
円筒形はにわ		吉備考古館蔵
円筒形はにわ	榊山古墳	本館蔵
円筒形はにわ棺(3)	陣陽山古墳	瀬戸町教育委員会蔵
きぬがさ形はにわ	金蔵山古墳	倉敷考古館蔵
はにわ質盒子	〃	〃
鶏形はにわ(頭)	〃	〃
家形はにわ	〃	〃
(入母屋形)		
水鳥(2)	〃	〃
朝顔形はにわ	月ノ輪古墳	柵原町教育委員会蔵
楯形はにわ	〃	〃
鞆形はにわ	〃	〃
家形はにわ	〃	〃

(切妻形)		
家形はにわ	月ノ輪古墳	柵原町教育委員会蔵
(入母屋形)		
甲冑形はにわ	〃	〃
壺形はにわ	四つ塚古墳	岡山大学蔵
馬形はにわ	〃	〃
鶏形はにわ(3)	〃	〃
家形はにわ	〃	〃
犬形はにわ	円光寺遺跡	個人蔵
人物はにわ	〃	〃
(飾袴をつけた男子)		
人物はにわ	〃	〃
きぬがさ形はにわ	仙人塚古墳	笠岡市教育委員会蔵
甲形はにわ	西ノ平古墳	倉敷考古館蔵
冑形はにわ	〃	〃
人物はにわ	明神山古墳	個人蔵
人物はにわ	岩田1号墳	中国古代資料館蔵
人物はにわ	総社市三輪	吉備考古館蔵
ひよこ形はにわ	岡山市津高	瀬戸内考古学研究所蔵
人物はにわ	馬場五輪遺跡	本館保管



飾袴をつけた男子

## 特別陳列

### 前期展

## 河本家と経誼堂

河本家は岡山船着町の豪商、代々城下の総年寄を務めた家柄である。5代目一阿(享保13～寛政8年)の時、庶民のための学問道場・図書館として「経誼堂」を開設しており、その蔵書は3万2千冊に及んだといわれる。同家はまた書画・骨董の蒐集家としても知られ、松平定信が編さんした『集古十種』には、銅鏡、楽器、古画が収録されている。因に、「銭鬼草紙」(国宝)は同家の旧蔵であった。

展示は、岡山市立図書館が収蔵する河本家代々の肖像、経誼堂の題字、蔵書印、岡山県総合文化センター所蔵の『集古十種』のほか、経誼堂の旧蔵書、「応一阿翁需」の賛をもつ浦上玉堂の「南村訪雪図」など関係資料によって、江戸時代における岡山町人文化の一端を紹介した。

## 古備前の茶陶, 上古刀

「古備前の茶陶」, 「上古刀」展を昭和57年7月6日より10月3日まで実施した。前者は室町末期から江戸初期にかけて茶の湯の隆盛という基盤のもとで、備前焼はクライマックスを迎えたが、その時期の茶陶を43点展示した。茶入れなどは在銘ものを中心にしたが、全般的に、これまであまり紹介されたことのないものに重点を置いた。

後者の「上古刀」は重文直刀を始め総社市三須古墳出土の直刀や八幡大塚古墳出土のねじり素環頭太刀等5口を展示した。いわゆる上古刀は正倉院刀以外では研磨して、その鎌肌まで解るといふものはほとんど残存していない。そうした中で、素環頭太刀を除いてすべて、研磨が施され、地鉄、焼入れ具合まで見ることができるものが展示できた。

### 後期展

## 密教画

日本への本格的な正統密教の伝来は、平安時代の初め、唐より帰朝した空海によってなされた。密教とはその名も

示す通り、秘密に説かれた表面からは知り得ぬ教えの意である。この密教秘奥の原理を表現するために曼荼羅が描かれた。難解な教理を解釈するには図が必要であった。また、非人格的な姿態を示す諸尊や忿怒明王像など新たな仏格の存在を肯定し、密教独自の画像とした。なお、これら密教像の作画の際、図像をモデルに利用することが多かった。

今回の特別陳列では、県下に所在する鎌倉から室町時代にかけての代表的な作品を展覧した。

◎愛染明王像(捧沢寺)、◎十二天像(長福寺)、◎両界曼荼羅図(持宝院)、図像抄(本館)ほか。

〈◎重文 ○県重文〉

## 麦稈・経木真田



展示風景

麦稈真田組みは、明治10年代に上房郡高梁町(現高梁市)、浅口郡寄島町に導入され、県西南部の麦栽培地域を中心として、国内第一の生産量を誇った。三平・四菱・五平など各種の組み方があるが、生産工程は単純な軽労働であったため、老人・婦女子・子供の手による農家の副業として広く普及した。

多くはカンカン帽や手提げ籠の材料として、欧米諸国へ輸出され、国内用には夏の日除け麦稈帽に加工された。第二次世界大戦前後からは、木材を薄く剥いた経木真田も登場し、麦作の衰退とともに市場に出まわった。

今回の展示は、割り樋・操り杓・かんな・罫引などの諸道具、各種の麦稈組み見本や麦稈帽製作工程を示す資料を中心に構成した。



## 巡回展

### — 岡山県の歴史と美 —

和気町中央公民館

11. 26(金)～11. 28(日)

本年度は、11月26日(金)～28日(日)にかけて和気町中央公民館を会場として開催した。巡回展は、博物館普及事業の一環として、館蔵資料を展示し、「岡山県の歴史と美」を広く県民に紹介するものである。今回の展示品では、和気庄に関する後光厳上皇院宣、和気郡出身の武元登々庵関係資料、また地元の方から本館へ寄贈を受けた備前焼壺(県重文)や刀清光を中心に構成した。

事前の広報や資料管理等に関しては、和気郡北部教育委員会・和気町中央公民館の協力を得て、期間中450名の入場者に熱心に鑑賞して頂いた。小・中学生の多くは考古資料に強い関心を示し、また御年輩の方々は備前焼・刀剣や絵画の前に足を止められていた。

今回の展示品目は、以下の通りである。

#### 出品目録

考古	旧石器(玉野市宮田山出土)	後期旧石器時代
	環状乳画文帯神獣鏡(備前市新庄出土)	
		後漢時代
	首飾(上房郡北房町出土)	古墳時代
	○石枕(備前市新庄天神山古墳出土)	
		〃
	家型骨蔵器	奈良時代
文書	後光厳上皇院宣	南北朝時代
	○足利尊氏御教書	〃
	熊沢蕃山書状(三好宗甫宛)	江戸時代
美術	宇喜多安心像	江戸時代初期
	吾与山楽図(浦上王堂筆)	江戸時代後期
	妓女図(柴田義董筆)	〃
	浦上春琴・武元登々庵等詩画卷	〃
	十六羅漢図(藤本鉄石筆)	江戸時代末期
甲冑	紫糸威腹巻	室町時代
刀剣	刀(清光)	〃
備前焼	播鉢	〃
	鶴首徳利	桃山時代
	○壺(慶長15年銘)	江戸時代初期
民俗	備前金陵山西大寺会陽之図	江戸時代後期
	柄鏡	江戸後期～明治時代
		(○印 県指定重要文化財)

## 博物館講座



吉備のはにわ展見学風景

「岡山県の歴史と文化」と題して、下記の内容で開講した。本講座は、開かれた博物館をめざす事業の一つで、昭和52年度開講以来すでに6年を経過した。講座の特徴は、館蔵の実物資料を活用しながら学習する点にあり、絵画・彫刻・備前焼・考古資料などを目にした講義は、理解しやすいと好評である。今回は、テーマ展「吉備のはにわ」の開催にあわせ、間壁倉敷考古館長の講義後に、テーマ展を見学していただいた。

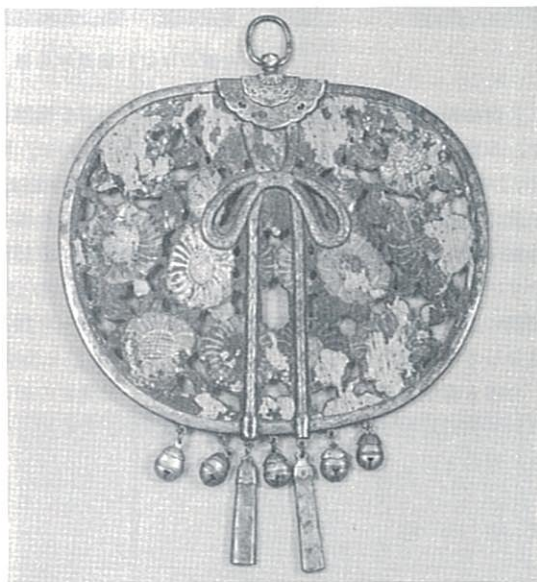
今年も募集人員を上回る応募を受けたが、受講者の顔ぶれが一部固定化する傾向にあり、広報の方法を含めて、今後課題を残した。

#### 講座内容

テ	マ	講	師	開講日
博物館の仕事	館長	高田	哲夫	6. 25 (金)
岡山県の製鉄遺跡について	県文化課埋蔵文化財係長	河本	清	〃
近世のたたら製鉄	主事	田村	啓介	7. 2 (金)
瀬戸内の海上交通	主任	竹林	栄一	〃
岡山県の仏教美術	学芸員	守安	収	7. 9 (金)
明治文学と森田思軒	岡大・山陽短大非常勤講師	富岡	敬之	〃
備前焼の流通と時代的特色	学芸員	日井	洋輔	7. 16 (金)
地図の歴史	学芸課長	三木	勇	〃
吉備の埴輪	倉敷考古館長	間壁	忠彦	7. 23 (金)
「吉備のはにわ」展見学	学芸課	三木	・日井	〃

## 57年度購入資料

- 木造彩色 菊牡丹透華鬘 1枚
- 逸見東洋作 堆黒軸盆 1点
- 岡山関係美術関係資料一括
  - 黒田綾山・岡本豊彦筆 画幅 4幅
  - 春琴手沢本, その他和書 27冊
- 平賀元義筆 歌幅 2幅
- 赤松氏関係文書 20点
- 宇田川玄隨 内科撰要 6冊
- 太刀 銘 備州長船政光 拵 1口



木造彩色 菊牡丹透華鬘

## 57年度寄贈資料

- 脇田秀太郎氏所蔵 古書籍 141件 330冊  
岡山市 脇田 すみ氏
- 二宮家文書 約1,000点 奈義町 高村 継夫氏
- 書状(古川古松軒宛, 柘植又左衛門書状) 1通  
真備町 粕谷 米夫氏
- 木屋印付ローソク 1本 早島町 森田平三郎氏

以上、貴重な資料の寄贈を受けました。長く大切に保管し、本館展示の充実のため活用させていただきます。ここに寄贈下さいました方々のご芳名を記し、厚く御礼申し上げます。

## 昭和58年度事業のお知らせ

### ◎展示計画

- 前期展 「岡山県の歴史と文化」 3. 12(土)～10. 2(日)
- 後期展 " 11. 12(土)～12. 15(日)
- テーマ展 「古備前の美」 4. 26(火)～5. 29(日)
- 「高瀬舟」 8. 3(水)～10. 2(日)
- 特別展 「岡山の近世絵画」 10. 7(金)～11. 6(日)
- 「弘法大師と密教美術」 1. 5(木)～2. 12(日)
- 巡回展 「岡山県の歴史と美」 8月上旬の予定

### ◎博物館講座

- (1) 主旨 博物館の普及教育活動の一環として、岡山県の歴史と文化について理解を深めるため開講。
- (2) 期日 6月24日～7月22日 毎金曜日
- (3) 定員 60名(一般成人から募集)

### テ マ 展

#### 「古備前の美」

昭和58.4.26～5.29

桃山時代の備前焼は、その長い無釉陶としての歴史の中で最も洗練され、「わび」、「さび」の風情によくマッチしたもものとして登場しました。今回はこうした備前焼にスポットを当てながら、他方県指定重要文化財の備前焼のすべてを一堂に展示し、その全貌を知っていただけるまたとない機会にしたいと考えています。

#### 「高瀬舟」

昭和58.8.3～10.2

県下の河川を頻りに往来した高瀬舟は、鉄道やトラックが登場するまで、内陸の輸送機関の主役として活躍した。また、江戸初期の河川開発に貢献した舟倉了以は、吉井川の高瀬舟を範として、諸国の河川に伝播したといわれる。

今回は、人々の記憶から消えつつあるこの高瀬舟の歴史の一端を、各種の民俗資料をまじえながら展示構成したいと考えています。

## 岡山県立博物館だより

No. 20

発行日 昭和58年3月31日

発行者 岡山県立博物館

館長 高田 哲夫

岡山市後楽園1-5

☎ (岡山)72-1149